

第6投目：大会期間中に貴重な1枚

2011.3月某日、奄美磯釣連盟3日間大会期間中での釣行です。前日まで北西が吹き続いていたため波が残っていることは予想されましたが、そこは高気圧に覆われる予報、我がクラブメンバーは大会に入賞すべく、5時30分に古仁屋港を出港、西側海域に走ってみることにしました。

夕離れ近辺に到着すると空はだいぶ明るくなっています。1月と比べるとだいぶ夜が明けるのが早くなってきました。波の状況からなんとか周辺の磯に渡れそうです。メンバー内の厳正なるジャンケン(笑)の結果、私とT会長の二人でM瀬に乗ることが決まりました。

磯の降り、周囲の潮を観ると上げ潮がある程度は流れているようです。ただ、今日は北からの強めの風と風波が釣りづらい状況を作っています。

午前7時、朝マズメで釣れるならここ！と二人で同じ潮を狙い続けていると、私に魚がヒット。



それまでイソゴンベを数匹釣っていたので『またか?』と竿を立て、ためているとなかなか魚が水面を割りません。そしてサラシの中に黒い魚体と切れ長の尾びれが見えました。クロです！浮かしてみるとサイズはかなり小さい・ぶりあげるか迷いましたが、そこは大会中、波を利用しゆっくり岩に乗せ、慎重に取り込みました。サイズを測ってみると42cmぐらいあります。40cm以上が大会のエントリー規定なので小さいながらも朝マズメでなんとか貴重な1枚をゲットできました。

その後、これを磯に枚数が続くかと思いましたが、会長と二人でいろいろな場所・潮を攻めるも数時間クロのアタリは無し・そんな中、午前10時ごろ今までより明らかに上げ潮が動きだしたことに気づきました。やっと風と波に仕掛けが飛ばされる状況に対抗できる一つの要素『潮』が流れだしたのです。

そして『喰うならここでしょ!』という Super Flow に、仕掛け投入の落とし場所 道糸の置き場所そして修正 仕掛けの張りと緩めを全てマッチさせて仕掛けをとどまらせ、そこに追い撒き餌が決まった瞬間でした。ウキがヒュルル~と入ったのは会長の仕掛け。誰もが簡単にはできないアプローチでクロをゲットしたのでした！いい釣りを見ることができましたよ

そんなこんなで、釣りづらい状況の中、なんとか二人とも大会にエントリーすることができ嬉しかったとともに、私自身、今後のクロ釣りに対する努力ポイントが明確となった釣行となったのでした。

